リード芦屋新聞

発行元
芦屋市立
あしや
市民活動
センター
リードあしや

記事
寺本　空未

絵本の役割伝えたい

「絵本で子育て」センター理事長の森ゆり子さん

「絵本で子育て」センター理事長の森ゆり子さんは、いろいろな人たちに絵本の大切さや役割を知ってもらいたいと思い、このセンターを作りました。森さんは、絵本の講演会を開いたり、絵本に関するイベントを開いたりすることで、多くの人にこの想いを伝えようとしています。絵本の講演会に参加してくれる人の年齢や国籍、職業などもバラバラですが、絵本の大切さを多くの人に知ってもらいたいという思いは、同じです。

このセンターを作った理由は、2つあります。1つ目は、このセンターを作った当時（2004年）読み聞かせブームだったからです。読み聞かせ会がいろいろな場所で行われ、子育て中の親御さんは、子どもを連れて、読み聞かせ会が行われている場所に通うようになりました。

しかし、子育ての悩みを抱える親御さんは、多くいました。その悩みは、「言葉を知らない子どもにとって、どうやって言葉をかけていいのかわからない」というものでした。

そのような人でも、絵本を読んであげるだけで、子どもに言葉をかけることができるようになります。そして、この子に読んであげたいと思う気持ちが大切だと思っています。

私は、読み聞かせ会を「レストラン」のご馳走ようなものと思っています。毎日ご馳走ではなくて、普段は家庭で親御さんが自分の言葉で読んであげてほしいと思っています。

2つ目は、当時、テレビなどの電子機器の弊害がとても多くなってきていたからです。家庭の中に電子音を流しっぱなしにしていると、その音は、小さい子どもにとっては言葉としては理解できず、騒音と同じです。今では、子どもの周りにメディアが存在しているのが当たり前になってきています。

そのような中でも、電子音を消して親御さんの生の声を子どもに届けてあげてほしいと思っています。子育てが少しでも絵本のおかげで楽しいものになってほしいと思っています。このような理由から、絵本の大切さを伝える「絵本講師・養成講座」を始めました。

同じ体験したような素敵な感覚味わって

時代の変化の中で、電子書籍が作られました。しかし、電子書籍では、絵本の紙質などのこだわりに気づくことができません。そのため、紙でできた本を買ってほしいと思っています。

絵本は、いろいろな問題提起がされていて学べることがあります。たとえば、いじめの起こったクラスで、先生は怒るのではなく、いじめについて書かれた絵本を読みました。それだけで子どもたちは、何かを読み取り、そのクラスにはいじめがなくなりました。

年齢によっても理解度は異なりますが、何かを感じとっているのです。読むことで、読み手と聞き手が絵本の中で、同じ体験をしたかのように感じます。読んでいる人にも聞いている人にもいろいろな気づきをさせてくれる絵本は、とっても素敵だと思います。

絵本を読むとき、親御さんは、時間がもったいないと感じてしまうかもしれません。しかし、絵本を読むのは、たった数分です。その時間の間だけでも手を止め、読む相手のことを考えて、感情を込めて読んでもらいたいと思っています。

時代と子育て環境の変化

体験できないことが多くなっても大丈夫

絵本をできるだけ家に保管しておいてほしいと思っています。絵本は、親子の回路を作ります。絵本があることで、将来、子どもが大きくなっても話の話題になったり、小さい時とは違った子どもなりの読み方を見つけることができます。

絵本はなくてはならないものになっていると思います。昔は近所の異年齢の人たちと遊ぶのが当たり前でしたが、今はないことが影響していると思います。

昔は、遊びの中で感情を動かされることが多かったですが、そのような体験ができなくなってきている今は、いろいろな感情を絵本から学ぶことが多くなっています。

他にも、子どもたちの3つの「間」がなくなったこと も影響していると思います。1つ目は、幼い時からお稽古に行ったりして、遊べる「時間」がなくなってしまいました。2つ目は、子どもたちだけを遊ばせておくのが危険なので、公園などの遊ぶ「空間」がなくなってしまいました。3つ目は、「仲間」がいなくなってしまいました。絵本の比重が大きくなってきていると思います。